

# 大阪大学図書館報

Vol.33 No.2 Sept. 1999 (平成11年) 通巻134号

## 目次

- 韓国大学図書館を訪問して
- 本館新築工事の現状
- 電子展示「西洋古版アジア地図」を公開
- 教官著作寄贈図書
- お知らせ
  - ・ Science Direct 試行サービス
  - ・ 本館で Britannica CD 等のサービス開始
  - ・ Web 版 OPAC の一部改良
- 会議・日誌

## 韓国大学図書館を訪問して

西原 浩

### 1. まえがき

今年の8月末から9月初めにかけて、私の専門分野であるレーザ／オプトエレクトロニクス関係の国際会議が韓国ソウル市で開催された。韓国を開催国と決めた責任者の一人としての出席を要請されたこともあって、訪問することにした。ソウル訪問は3度目である。この機会を利用して、会議の合間に、延世大学とソウル大学の中央図書館の訪問を計画した。日本を出る前に、ホームページでそれぞれの大学およびそ

の図書館の沿革は調べたくらいで、とくによく調査したわけではなく、おまけに訪問もそれぞれ約2時間くらいであったので、せいぜい印象程度しか記せないが、この訪問を通して、図書館や大学教育のあり方など、さまざまなことを考えさせられた。

韓国の人口は約4800万人で、ソウルに約1200万人、すなわち総人口の4分の1が住んでいるとのことである。そのため、人口密度は高いし、街は何となく騒然としている。至るところ道路工事中であり、道路は両側12車線く

らいあっても、車が溢れており、常時渋滞している。そして人々が多く活気に満ちている。

## 2. 延世大学中央図書館

延世大学は、1885年に創立した韓国で最も古い大学であり、真実と自由を建学の精神としているキリスト教主義の私立大学である。わが大阪大学とは昨年の秋に全学の学術交流協定が結ばれ、岸本総長も訪問している。大学は、ソウル市の北西部にあり、環状地下鉄線の新村駅から徒歩で10分くらいのところにあり、よく計画されデザインされたキャンパスは美しい。正門からまっすぐに中央の道路が延びており、その先に大学の本部がある。その途中の左側に中央図書館がある。大きな堂々とした6階の建物である。

約束の時間にカウンターに行くと、チュン(Chung)館長が出迎えてくれた。女性であった。日本からメールをやり取りしているときは、当然男性だと思っていたので(名前がアルファベットで書かれていたので)、すこし戸惑った。館内は若い女性図書館員チェ(Chae)さんが案内してくれた。どちらも英語が堪能だったので限られた時間での情報交換の効率は良かった。



(延世大学中央図書館)

見学後、チュン館長がキャンパス内のゲストハウスで昼食に招待してくれ、ゆっくりといろいろな話をすることができた。館長は図書館・情報工学専攻の教授であり、忙しくてあまり館長室には来れないこと、先のチェさんはその専

攻の修士課程の卒業生であること、彼女は学生時代に米国の大学に留学していたので英語が上手であることなどを話してくれた。

## 3. ソウル大学中央図書館

ソウル国立大学はソウル市の南西部にあり、やはり環状地下鉄線の外側にある。緩やかな広大な緑いっぱいの丘の斜面にキャンパスが広がり、登って振り返るとキャンパスが一望できる。はじめに目に入る堂々とした大きな建物が中央図書館であった。リー(Lee)館長は計算機工学の教授であり、残念ながら不在であったが、館内の案内はいかにもベテランという感じの女性図書館員キム(Kim)さんがしてくれた。英語が堪能で、半年ほど前に日本のNHKの番組でソウル大学の図書館の紹介があった話をする、貴重資料をカメラに収録したときの苦労話をしてくれた。

ソウル大学の図書館は韓国一と聞いていたが、さすがに大きく、よく整っているように見えた。1945年の日本からの解放を境に資料がよく整理されているとのことであった。マイクロ化などを図書館内でスタッフが作成している所も見せてくれた。

## 4. 阪大附属図書館本館との比較

他大学の図書館を見学すると、どうしてもわが阪大図書館と対比してしまう。訪問中に見聞したことや案内冊子に掲載してあることなどを整理して大阪大学と比較してみた。表1に示す。不正確なデータもあるかもしれないが、ご容赦願いたい。

(1) 図書館が対象とする両大学の学生数は阪大よりも約2倍強であり、総床面積はソウル大は阪大の増築後と比べても1.5倍大きい。

(2) 両大学の自習室(Reading Room)は学部生用と院生用とが別々になっており、その席数は阪大とは比較にならないくらい多い。延世

大では学生ユニオンが管理しているとか。そしてこの自習室の一部は年中 24 時間オープンである。また、一日の入館者数は阪大に比べて約 10 倍である。

(3) 所蔵図書目録の電子化率（いわゆるOPAC化率）は、両大学とも 100%である。また、学位論文のオンライン化がすでに進んでいる。

(4) 両大学では、ごく最近であるがすでにマルチメディア・コーナーに海外衛星放送を受信できる設備を設置していた。来年3月に阪大本館の増築部分が竣工したら、そのようにサービスを開始したいと、この4月に発足した研究開発室で検討中であるが、現在資金が全く無いため、阪大の計画は行き詰まっている。

#### 5. 韓国の図書館は学生で溢れている！

韓国の両大学の図書館を訪問して特に印象的だったのは、図書館の各部屋や自習室が学生でいっぱいであったことである。図書館の静かな雰囲気ではなく、講義室から出てきた学生がうろろしているという感じである。図書館を利用する学生が日本と比べて極端に多い原因はいったい何だろうか訪問中そればかり考えていた。この点を疑問に思って案内の図書館員や、あとで親しい大学教授にも尋ねてみた。それらの答を総合すると、「グループで勉強するのが好きだから」、「図書館がキャンパスの中央にあるから」、「いまは不況だからよく勉強する」、「資格を取る試験勉強をしている」、などが主な理由のようだ。

阪大の本館も期末試験期には学生が溢れる状態になるのであるが、普段はそうでもない。試験期には溢れるということは、普段は勉強しないということだろうか。確か昨年、学生生活委員会がとったアンケートでは、一週間当りの平均勉強時間は1～2時間が最も多かった。授業以外の読書の時間もほとんどなかった。以前はそうではなかった。阪大（あるいは日本）の学生はだんだん勉強しなくなっているということか。講義

が終わると、さっと帰宅し、アルバイトに行っているのではなかろうか。

私の推測であるが、韓国の学生はキャンパス生活が豊かに行き届いているので、できるだけ遅くまで大学にいたいと思っているのであろう。この点はうらやましい。ソウル大の訪問は午後3時から5時頃までであったが、5時頃もキャンパスや図書館に学生があふれていた。多分、学問に興味があり、彼らの話題は講義の内容のことが多くなり、勉強の場所である図書館と一緒にいくのであろう。キャンパスの環境は良いし、図書館にはスペースがあるし、好条件が揃っている。



(ソウル大学中央図書館)

#### 6. 大学教育

その国の知的レベルは大学を見れば分かる、そして中でも図書館を見れば分かる、よくいわれる。米国の大学図書館が進んでいることは知っているが、韓国はそれほどではないだろうと思っていたが、それは私の間違った先入観であることが分かり、大きなショックであった。1996年に「超高速情報通信基盤構築」事業が始まり、韓国全体の電子図書館の方向を示す「国家電子図書館基本計画」が進められていることの情報は得ていたが、大学図書館の電子化がそんなに進んでいるとは思わなかった。

韓国の大学を訪問して、日本の大学の教育の状況について考えさせられた。日本は経済的には世界に誇れる国に成長したのであるが、果た

して教育はどうであろうか。韓国の大学をみると、学生は日本の学生よりもずっと大切に扱われているという印象を持った。国家が教育にかける予算が多いのであろう。ユネスコ統計年鑑によると、政府支出に対する教育支出の割合は、1996年の調査では、先進諸国で日本が一番低く9.9%、韓国は17.5%であり、このことを裏づけている。このような数字をみると、韓国政府の教育にかける意気込みが日本よりも大きいことがわかる。

## 7. あとがき

今回、韓国を代表する2つの大学の図書館を訪問する機会を得て、考えさせられることが多

かった。ただ、一言述べておかなければならないのは、この拙文を読んで下さった方が、阪大の図書館は一体何をしているのか、もっと電子図書館化も、24時間サービスもなぜしないのかとご不満を抱かれるのではないかと心配するが、わが図書館もすべきことはわかっている、その計画は多くあるが、要するに予算がないのである。したがって、なにも新しいことができないのである。日本の主要大学の中では、阪大図書館のスタッフ数は非常に少なく、現在の総床面積も最低なのである（この度の増築でやっと文部省の基準にほぼ達するが）。ご満足いただけないのは当然であろう。このような事情をご理解いただき、今後の先生方の一層のご協力を乞う次第である。

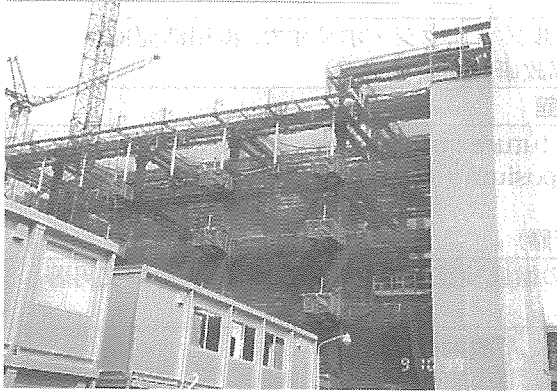
表1 延世大学、ソウル大学、大阪大学の比較

項 目		延世大学 中央図書館	ソウル大学 中央図書館	大阪大学 附属図書館本館
総床面積		--	約 30,000 m <sup>2</sup>	現在 約 9,000 m <sup>2</sup> 増築後 約 19,000 m <sup>2</sup>
分館数		3	12	2
対象 学生数	学 部	約 18,000 人	約 23,000 人	約 9,500 人
	大 学 院	約 4,000 人	約 6,000 人	約 3,300 人
座 席	学部/大学院	約 6,000 席	約 4,200 席	増築後 1,550 席
開館 時間	図書貸出	9 am - 8:30 pm	9 am - 6 pm	9 am- 8:30 pm
	自習室	6 am - 11 pm 一部は年中 24hr	6 am - 11 pm 一部は年中 24hr	自習室を廃止し、 閲覧室を拡張
学生の入館者数 (1日平均)		約 20,000 人	6,000~8,000 人	約 2,000 人
所 蔵 図 書 数		1 3 0 万冊	1 6 0 万冊	1 4 0 万冊
図書目録の電子化率		1 0 0 %	1 0 0 %	4 7 %
学位論文の電子化		'95以降の650冊済	'94以降完了	未 定
マルチメディア部 (海外衛生放送)		本年7月開始	本年8月開始	準備中

(にしはら ひろし 図書館長・工学研究科教授)

## 本館新築工事の現状

本年3月に開始された本館新館の建設工事は順調に進捗しています。9月現在、鉄筋部分がほぼでき上がり、6階建ての建物の全容がわかるようになってきています。



また、前号でお知らせした東玄関の階段・スロープ工事は9月半ばに終了しました。この階段

とスロープは新館完成後も、図書館の東側からのアプローチとして使用されることとなります。



なお、東側歩道の無秩序な自転車駐輪が、工事完了直後からまた目につくようになっていきます。前号でお知らせしたように、自転車は正規の駐輪場に置くようにお願いします。

## 電子展示「西洋古版アジア地図」公開

館報32巻4号で「西洋古版アジア地図」の電子化についてお知らせしましたが、このほど、そのデータをWWWで公開しました。

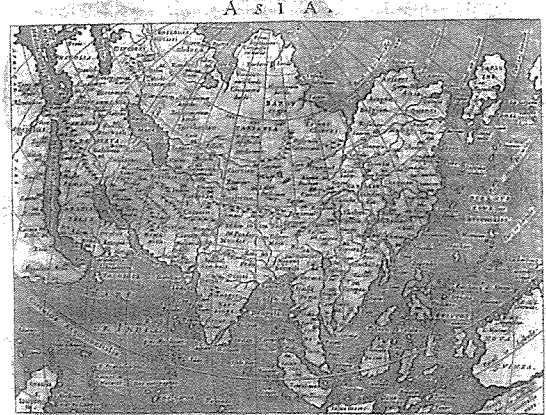
URL: [http://www.library.](http://www.library.osaka-u.ac.jp/tenji/maps/maps.htm)

[osaka-u.ac.jp/tenji/maps/maps.htm](http://www.library.osaka-u.ac.jp/tenji/maps/maps.htm)

西洋古版アジア地図は、西洋で発行されたアジア、特に東アジア・北アジアの地図及び図版97点からなるコレクションです。中には、地図の投影法で知られるサンソンやボンヌ、オホーツク海周辺を探検したラ・ペルーズなど、地理学上に名を残した人々による地図も多く含まれています。

発行年代の一番古いものは1572年のT・ポルカッキによる、『アジア図』（右図）、一番新しいものは、1875年のアシェット社の旅行ガイドに収録された『東京周辺地図』です。ほとんど想像で描かれた地図から、鉄道や幹線道路の書き

込まれた旅行用地図まで、300年にわたる西洋から見たアジア像の変遷が伺えます。



T. ポルカッキ 『アジア図』（1572）

■■■■■ 教官著作寄贈図書 (1999/April-Sept.) ■■■■■

本 館	
菅野 盾樹 (人間科学部、教授)	恣意性の神話：記号論を新たに構想する / 菅野盾樹著 東京：勁草書房, 1999
	人間学とは何か / 菅野盾樹著 東京：産業図書, 1999
田中 規久雄 (法学部、教授)	法律業務のためのパソコン徹底活用 book / 藤田康幸編著 東京：トール, 1999
浜田 浩児 (社研、教授)	日米家計の貯蓄行動 / チャールズ・ユウジ・ホリオカ, 浜田浩児編著 東京：日本評論社, 1998 (郵政研究所研究叢書)
生命科学分館	
下西 康嗣 (蛋白研、教授)	Peptide science, present and future ; proceedings of the 1st International Peptide Symposium / edited by Yasutsugu Shimonishi Dordrecht: Kluwer, 1999 (蛋白質研究所図書室にも寄贈)
寺岡 文雄 (歯学部、教授)	変形しない義歯づくりのための徹底検証レジン床のすべて / 寺岡文男著 東京：医歯薬出版, 1999
池内 俊彦 (蛋白研、助教授)	タンパク質の科学：生命を学ぶ / 池内俊彦著 東京：オーム社, 1999 (蛋白質研究所図書室にも寄贈)
森本 兼麩 (医学部、教授) 丸山 総一郎 (医学部、講師)	Recent advances in physiological anthropology / edited by Masahiko Sato, Hiromi Tokura, Shigeki Watanuki Fukuoka-shi : Kyushu University Press, c1999
谷口 直之 (医学部、教授)	医学を学ぶための生物学 / 谷口直之, 米田悦啓編集 東京：南江堂, 1998
早川 和生 (医学部、教授)	地域精神保健看護 / ナンシー K. ワーレイ編 東京：医学書院, 1999 早川和生監訳
倉智 敬一 (名誉教授)	ピル服用指導ガイドブック / 倉智敬一著 東京：医学書院, 1999
吹 田 分 館	
土岐 博 (核物理研究センター、 教授)	Frontier 96 : XV RCNP Osaka International Symposium Nuclear Physics Frontiers with Electro-weak Probes : RCNP Osaka, Japan, March 7-9, 1996 / editors, H.Toki, T. Kishimoto, M. Fujiwara Singapore : World Scientific, c1996
	Confinement 95 : International RCNP Workshop on Colour Confinement and Hadrons, RCNP Osaka, Japan, March 22-24, 1995 / editor, H. Toki . Singapore : World Scientific, c1995
	The Second International Conference on Research and Communications in Physics (RACIP2) : World Congress of Physical Societies ... / organized by The Physical Society of Japan and The Japan Society of Applied Physics. Tokyo : The Physical Society of Japan, 1996
	International Workshop on Exciting Physics with New Accelerator Facilities (EXPAF97), SPring-8, Hyogo, Japan, 11-13 March 1997 / editors, Hiroshi Toki, Shin Date Singapore : World Scientific, c1998
榎木 亨 (名誉教授)	土木へのアプローチ 第3版 / 榎木亨, 柴田徹, 中川博次編著 東京：技報堂出版, 1999
横田 隆司 (工学部、助教授)	空間体験：世界の建築・都市デザイン / 日本建築学会編 東京：井上書院, 1998

吉田 敏臣 (生物工学国際 交流センター、教授)	培養工学 / 吉田敏臣著 東京：コロナ社, 1998.12 (バイオテクノロジー教科書シリーズ ; 13)
大森 裕 (工学部、助教授)	有機 EL 素子とその工業化最前線 / 宮田清蔵監修 東京：エヌ・ティー・エス, 1998
北川 浩 (工学部、教授)	Mesoscopic dynamics of fracture : computational materials design / H. Kitagawa, T. Aihara, Y. Kawazoe (eds.) Berlin : Springer-Verlag, 1998 (Advances in materials research ; 1)
足立 吟也 (工学部、教授)	希土類の科学 / 足立吟也編著 京都：化学同人, 1999
蛋白質研究所図書室	
泉 美治 (名誉教授)	科学者が問う来世はあるか：科学と仏教の価値 / 泉美治著 東京：人文書院, 1999

### ●●●●● お知らせ ●●●●●

#### ○Science Direct 試行サービス

附属図書館では6月よりElsevier社の雑誌記事全文データベースが利用できる Science Direct の試行サービスを提供しています。大阪大学内から下記のURLにアクセスするだけで利用できます。(学外からは利用できません。)

URL: <http://www.sciencedirect.com>

Science Direct の試行サービスは1999年末まで利用可能になる予定です。

#### ○本館で Britannica CD 等のサービス開始

本館2階の情報検索コーナーで、下記のCD-ROMのサービスを新しく始めました。

##### ・Britannica CD 98

Encyclopedia Britannica のマルチメディア版で、本文の他に、動画や音声データを多数含んでいます。Britannica については、近い内にオンライン版も利用できるようになる見込みです。

・Catalogue général des Imprimés de la Bibliothèque nationale de France des origines à 1970

平成10年度高額参考図書として購入したもので、フランス国立図書館(BNF)の1970年以前の図書目録を収録しています。最初はオンライン版で提供する予定でしたが、都合により今年度は単体利用になりました。

#### ○Web版OPACの一部改良

大阪大学のWeb版OPACでは、検索結果が31件以上ある場合は、30件ごとにページに分割して表示します。このページ間の移動は、従来は[more]ボタンで次のページに移る機能しかなかったのですが、このほどインターフェイスを改良し、[prev]及び[jump]ボタンが表示されるようになりました。

[prev]は前の画面、[jump]は、入力した任意の番号を先頭として表示する機能です。従来の[more]ボタンは[next]に名前が変わっています。なお、この機能を使うにはブラウザの設定で「Java Script」を有効にしておく必要があります。

### ●●●●● 会 議 ●●●●●

吹田地区運営委員会

6. 22 (火) 10:30~10:50

1. 次期吹田分館長候補者の選考について、岸田分館長の7月16日付け辞任に伴い、次期吹田分館長候補者の選考を行った。選考の結果、工学研究科、分子化学専攻の池田功教授を次期吹田分館長候補者に選出した。

分館長会議

7. 12 (月) 10:00~12:00

1. 大阪大学の設置形態に関する研究会からの「アンケートへの協力依頼」に対する回答について、審議を行った。

## 分館長会議

7. 23 (金) 9:30 ~ 9:47

1. 図書館委員会の議題整理を行った。

## 図書館委員会

7. 23 (金) 10:03 ~ 11:43

1. 平成11年度事業費及び運営費の予算配分について審議し、原案どおり承認された。
2. 平成11年度附属図書館の主な課題（本館増築関連、図書資料購入費等）について検討を行った。

## 生命科学分館運営委員会

7. 26 (月) 10:00 ~ 11:50

1. 平成11年度の分担金増額について、原案どおり承認された。
2. 平成11年度製本費予算配分について、原案どおり承認された。
3. 平成12年度分担金購入雑誌について、アンケートの実施結果により調整することになった。  
13年度以後の購入雑誌全般にわたる収集方針について、図書選定小委員会で検討することになった。

## 吹田地区運営委員会

8. 30 (月) 13:30 ~ 14:45

1. 平成11年度学生用図書購入費執行計画について、審議の結果、原案通り承認された。
2. 吹田分館備付研究用継続資料の見直しについて、アンケート結果を審議し、外国雑誌5タイトルを中止して、その節減額相当の新規希望の資料を購入することが了承された。

■■■■ 日 誌 ■■■■

H11. 6. 1	研究開発室会議	(本館)
6. 10	第68回近畿地区国公立大学図書館協議会総会	(奈良春日野荘)
6. 22	吹田地区運営委員会	(吹田分館)
6. 23 ~ 24	第46回国立大学図書館協議会総会	(仙台国際センター)
6. 25	外国雑誌センター館会議	(東京工業大学)
7. 12	分館長会議	(本館)
7. 13	電子図書館システム専門委員会	(本館)
7. 23	分館長会議	(文学部)
7. 23	図書館委員会	(文学部)
7. 26	生命科学分館運営委員会	(生命科学分館)
8. 23 ~ 24	ILLシステム地域講習会	(本館)
8. 25 ~ 27	目録システム地域講習会	(本館)
8. 30	吹田地区運営委員会	(吹田分館)

ご冥福をお祈り申し上げます

岸田前吹田分館長が平成11年9月13日にご逝去されました。  
岸田先生は平成10年4月1日に分館長に就任され、吹田分館の運営に貢献されましたが、体調を崩され、平成11年7月16日付けを以て分館長を辞任されました。

ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。